

2008年3月27日

「活性化委員会の考え」について

関西テレビ放送株式会社

関西テレビ活性化委員会の皆さまには、お忙しい中にも関わらず、600通以上にのぼる役員・社員の決意表明・提言をお読みいただき、ありがとうございました。また、先般、「活性化委員会の考え」（以下「考え」といいます）と題するまことに心のこもったメッセージを頂戴いたしました。役員・社員一同たいへん感謝いたしており、重ねてお礼申し上げます。

「考え」には当社役員・社員に対する叱咤のほか、当社役員・社員の意識からうかがわれる「資源の放送への集中」「社内コミュニケーション」に関する問題点も指摘されていました。当社としてもご指摘の事項は重大であると考えているところであり、対応を鋭意検討しております。詳細につきましては、4月11日の活性化委員会に対するご報告までにまとめるつもりですが、現段階で以下のことをご報告いたします。

（経営資源の集中について）

良質な番組制作に資源を集中すべきだという意見を社員の多くから受け、また活性化委員会からもいただきました。競争力のない事業からの撤退という点に関しては、放送への資源集中という観点以外にも、広告収入の低迷という現下の状況への対応という側面もあると認識しています。

関係会社再編プロジェクトの進捗を加速させるため、4月より2年間、当プロジェクトの要員として、シンクタンクとコンサルティング会社より計2名の出向を受け入れます。グループ再編に必要な専門知識を有するスタッフを補強することで、より効率的で強靱な企業グループを形成していきます。もちろん、本業への資源の集中や競争力のない事業の再編が重要なテーマとなります。

（社内コミュニケーションについて）

活性化委員会の指摘にあるとおり、さまざまなフェーズで社内のコミュニケーションがうまく行っていないことを痛感しております。そこで、会社として可能な、以下の各点を実施することを考えています。

- ① 職場でのコミュニケーションスキルの向上や部門の運営などに関するライン管理職の役割研修を局長・部長に対して行い、定例化します。
- ② 取締役会・執行役員会など重要会議の情報を、経営上の秘密・個人情報に関するものなど、開示に適さないものを除き、社内に開示する方法を早急に検討し、実施します。
- ③ 経営者と社員のコミュニケーションの場を増やします。

- ④ その他社員からの提言の中で社内コミュニケーションの増進に資するであろう企画を検討し、実施すべきものについて早急に実施します。

社員に対しても、さまざまな機会を利用して、上司・同僚・部下、先輩や後輩との部署の垣根を越えた密なコミュニケーションを図るよう、指示する所存です。

(経営のビジョンについて)

「考え」において明確にすることが求められている「経営のビジョン」につきましては、中期経営計画や単年度のアクションプランとあわせて、現在鋭意検討いたしております。活性化委員会から検討を求められている経営機構改革の検証とあわせて、次回4月11日の活性化委員会に報告させていただく所存です。

以上